



○まちを歩く

四月、岐阜女子大学の学生さん三名が笠松商店街を訪れた。往時を忍ばせるたたずまい、人通りが少ない街なみから受ける印象は

暗くながち。しかし、声をかけていた
 だく町の方々の明るさ、温かさ、品の良
 さが心の落ち着きを感じさせ、明るいイメージに変わっていった。さらに、こうした雰囲気大切にされた元
 気な町にならないかと考えるようになった。心を大切に作る元気な



町づくりのイメージがふくらんできた。

○町のイメージカラー

調査研究活動が始まり、わずか二ヶ月後の六月二十七日、まちの駅「杉山邸」で、「タウンイメージカラーとオレンジ

日和」と題して、三名の学生さんによる提案が行われた。そして、町長、N

P O 法人、まちの駅、道徳のまちなどの関係者と意見交流が行われた。

提案の第一は、町の特色を誰にもわかりやすい色（イメージカラー）でアピールすること。確かに効果的なアピールが期待できる。しかし、この町をどんな色でアピールするか？ そう問われれば、地名の松の「みどり色」、木曾

川の「みず色」をイメージする人が多かった。学生さんは心温かくエネルギー豊富な町づくりをイメージし「オレンジ色」とした。発想の転換である。

岐阜女子大学 学生提案会

笠松のイメージカラーは何色？



○オレンジ日和の企画

提案の第二は、心温かく元気なオレンジ色の町をめざすには、人と人とのふれあいと心の通い（心のまちづくり）が第一。そのため、商店街を貫く道沿いに縁台などをもち出し、人々がふれ合い共に取り組む催しを企画し心のふれあいを育んではどうかという提案。名づけて「オレンジ日和」の企画。

心温かく元気なまちにできないかと学生さん。若い感性を生かした提案と取り組みはこれからも続く。



タウンイメージカラーについて提案する
 岐阜女子大学の学生さんと先生方